

ストップ・コップ・シティ (SCC) 運動

クリス・ヘッジズ&ウィル・ポッター著、脇浜義明訳、田中一弘補訳

The Real News, 2023年6月9日

*脚注はすべて訳注

環境保護運動や動物解放運動に対する国内テロ容疑の使用は、アトランタの「ストップ・コップ・シティ」運動が今日直面している弾圧の重要な先例となった。



2023年3月28日、アメリカ・ワシントンDCの司法省前で、アトランタでの「ストップ・コップ・シティ」運動との連帯を呼びかけ、幅広いイデオロギーや提携に基づいて抗議しているデモ隊。写真：Celal Gunes/Anadolu Agency via Getty Images

ジョージア州アトランタの「ストップ・コップ・シティ」運動 (SCC) はブラック・ライブズ・マター (BLM) 運動の一環で、環境擁護活動家と警察廃止運動活動家 (police abolitionist)¹ が組んで、アトランタ警察とアトランタ市が歴史的なウィーローニー森を潰して公安の都市型戦闘訓練施設を建てるメガプロジェクトを阻止する運動である。人間と地球のために立ち上がった40人以上の活動家が国内テロ容疑で逮捕された。『グリーン・イズ・ザ・ニュー・レッド』の著者ウィル・ポッターが、クリス・ヘッジスとの対談に参加し、

¹ 警察を他の民主主義的公安システムに置き換えることを提唱する政治運動。

コップ・シティの活動家に対する弾圧を、環境活動家に「国内テロリスト」のレッテルを貼ってきた長い歴史の中に位置づけた。ポッターは社会正義、環境運動、9・11以降の公民権への権力の攻撃に関する本をたくさん書いた調査ジャーナリストである。

クリス・ヘッジズ: この3月森林を破壊して警官と消防士などを教育訓練する公安トレーニング・センターを建築する9千万ドル事業に反対する集会と音楽祭をSCCが開催していたのを、アトランタ警察が襲撃して、23人を逮捕し、26歳の先住民環境活動家で地域オルガナイザーのトルトゥギータ（別名マヌエル・エステバン・バエス・テラン）を射殺しました。逮捕された人々は、警官に殺害された黒人ジョージ・フロイドの像のもとで行われた音楽祭から1マイル以上離れたところに位置するコップ・シティ建設現場で器物破損と放火を行った容疑で逮捕されたが、逮捕令状には容疑者をそういう違法行為に直接結びつける文言が一切なかったのです。

コップ・シティは州が警官を市街戦訓練するために企画した総合施設です。その中には非民生的で軍隊式の訓練施設、市街戦訓練用の模擬市街、爆薬訓練場、住民取締り訓練用の模擬地域、射撃練習場、ブラック・ホーク・ヘリコプター発着場があります。コミュニティ・ムーブメント・ビルダーズのクワメ・オルフェミは「それは警官が黒人を殺害し、我々の団体や運動を制御する軍隊式の操作を学ぶ戦争基地だ」と指摘しています。「コップ・シティには射撃場、爆発物試験場があり、催涙ガス配備を訓練する。2020年アトランタ警察が27歳の黒人青年レイシャード・ブルックスを殺害したように再び街頭で我々を殺しても、貧しい労働者階級の人々が抗議できないように制御する訓練をするのです。我々黒人を殺し続けても地域社会が抗議できないように警備体制を固める訓練をするのだ」と彼は言いました。

警察の軍隊化、警察を国内占領軍に訓練する複合施設と同じように無気味なのは、反テロ法を使って活動家、抗議者、反対者を捉えて刑務所送りにすることです。今日おいで願っている元シカゴ・トリビューン紙記者のウィル・ポッターは『グリーンは新しいアカ』という本で権力者が反テロ法を使って反対の声、とりわけ動物愛護や環境保護の活動家を弾圧していることを書いています。彼はその弾圧を1950年代のマッカーシズムに喩え、現在は警察国家へ変貌する転換点だと警告しています。

ポッターはテキサス大学の学生時代に菜食主義者（ヴィーガン）になり、シカゴ・トリビューンの記者をしているときにハンチンドン動物虐待阻止グループの運動に加わりました。運動の目的はハンチンドン生物科学会社の動物実験場の閉鎖であったが、会社は今も動物実験を続けています。運動のオルガナイザーたちは不法侵入で逮捕されました。このとき、ポッターは米国家が市民的自由をどう扱っているかを直接的に体験しました。二人のFBI捜査官がポッターのフラットへやってきてグループに関する情報を要求し、協力を拒否すれば、お前の名前を国内テロリスト名簿に載せると脅しました。彼はやがて国家による活動家の脅迫や、企業国家や政治と経済を牛耳っている1%の所得上位者に反対して

いる非暴力活動家に対する脅迫について記事を書くために、新聞社を辞めました。今日は、我々を取り囲むオーウェルの世界について話し合うためにポッターさんにきてもらいました。

ポッター、あなたはシカゴ・トリビューンの編集室にいるときに『グリーンは新しいアカ』を書きました。私たち二人は新聞業界出身で、一度ダラス・モーニング・ニュースで一緒に働いたことがあります。あなたが児童殺害の取材を行ったことを覚えていますよ。新聞業界で働いたことがない人々はニュース編集室を支配している不感症的シニシズムや精神麻痺が分からないし、記者が心を込めて報道することが如何に困難であるかを理解できません。記者には二種類のタイプがあるというのが私の持論です。心を込めて書く記者とそうでない記者の二種類で、編集室は二つに分裂しています。これは政治ではありません。同じ業界出身なので、その点から話を始めましょう。

ウィル・ポッター：よく見えていますね。そのことは、記者自身は滅多に語りません。日々のニュースの洪水、流血事件や暴力やそれに圧倒されて一種の絶望的感性になる洪水の中で生き残るためには、貝の蓋のように固く、不感症になることです。それはジャーナリズム界で発展している一種の物神崇拜です。そういうマッチョな姿勢を保って、取材で出会ったものを心に留めたり、トラウマを受けずに、全速力で前進するだけになるのです。私は萍数の新聞社に関わってきましたが、どこでもそういう雰囲気です。あなたが言ったように、多くの記者は世界を変えようと、大衆を教育しよう、環境や社会を変革しようという考えを持って新聞社に入社するのですが、結局新聞社文化に潰され、不感症になってしまうのです。

クリス・ヘッジズ：新聞社に入ると記者が意識的に抵抗しないと直ぐに感性を奪われてしまいますね。

ウィル・ポッター：ええ、直ぐにです。

クリス・ヘッジズ：ハンチンドン生物科学会社の動物実験場の話へ移りましょう。あなたはビラ配りをしたのでしょうか。それ自体はたいして害のない行為ですね。

ウィル・ポッター：ええ。

クリス・ヘッジズ：でも、FBIは重大と見たのですね。この事件は動物愛護運動における極めて重要な瞬間でした。そこで、動物愛護運動を何故国家権力が恐れるのか説明してくれませんか。

ウィル・ポッター：FBIが来たほどだから、極めて重大な運動です。ハンチンドン生物科学会社の背景を説明します。あの会社はPETA²などの動物愛護団体と関係する秘密調査員によって何度も残酷行為を暴露された研究所です。潜り込んだ調査員は、例えば血管が小さくて注射の針がさせないので研究者が立腹してビーグルの子犬の顔を何度も殴打したり、猿を生きたまま解剖したりする残酷な行為をこっそりビデオ撮影し、運動の中で公開して、人々に訴えました。

² People for the Ethical Treatment of Animals 「動物の倫理的扱い求める人々の会」

ハンチントン動物虐待に反対するグループの運動は他の動物愛護運動と異なっています。グループは張り紙や垂れ幕を持って研究所の前でデモをしません。研究所はそんなことを気にしないからです。研究者も研究へ投資する人もデモなんかには痛くも痒くもないことを、活動家はよく知っているからです。だから、彼らは会社の金銭面をターゲットにする活動を展開しました。ユナイテッド・パーセル・サービスからトイレトペーパー業者まで直接・間接的に研究所と商取引がある業者を抗議目標にしました。自然発生的なデモの形を取ったり、正体がバレないように事業所の窓や壁に抗議のステッカーや紙を張ったり、窓ガラスを壊したり、様々な形を取りました。小さな破壊行為から大勢の大衆抗議や嫌がらせまで、考えつく限りいろいろやりました。

これがすごく成功し、動物虐待企業を破産寸前に追い込みました。企業側は政治家と手を結んで、抗議グループにテロリストのレッテルを貼って、逮捕。訴訟、刑務所送りという攻勢をかけています。

クリス・ヘッジズ：ハンチンドンは別名で存在していますね。ハンチンドンを買ったのはエンヴィゴ社でしたね。

ウィル・ポッター：そうです。

クリス・ヘッジズ：当時動物会社は、プロクター&ギャンブル、コルゲート、パルモリーブなどの大企業が販売する家庭用洗剤、化粧品、医薬品、殺虫剤、食材の原料のためのテストに毎年71000～180000匹の動物を殺していました。あなたは動物虐待に反対する活動家の大きな組織を二種類に分けました。一つは、動物解放戦線のような地下組織と、合法的な公然組織です。地下組織は研究施設に侵入して破壊活動を行い、公然組織は非暴力運動なのですが、官憲は前者の罪を後者に被せて弾圧し、告訴します。両者の関係について話してください。

ウィル・ポッター：ええ、そのことが抗議運動の核心で、動物愛護運動だけでなく、すべての社会運動にとって危険な徴候を表しています。1960年代の反戦運動がいい例になります。当時反戦活動家の間では「私たちはあんなことをしないが、同情と理解はする」という言葉がありました。その意味は、私は不法で過激な反戦活動をしないうし、誰がそのような活動をしていたのかは知らない。しかし、それは同じ大義名分のもとで行われており、非暴力活動だったので、私はそのような非合法の活動を支持している、という意味でした。現在のハンチンドン動物虐待阻止グループの運動のメンタリティはそれと同じです。彼らはウェブサイトの活動も行い、そこで自分たちの活動だけでなく、地下組織の過激活動もウェブで伝えます。先ほど述べた事業所の窓や壁に抗議のステッカーや紙を張る活動から動物解放戦線がやっている研究所からの動物盗み出しや不法侵入や破壊活動など、すべてをウェブで流します。破壊活動と言いましたが、人間を標的にする攻撃はしていません。人間を攻撃しないことは過激派の動物解放戦線がこの数十年間守ってきたことで、SHAC (Stop Huntingdon Animal Cruelty) のオルガナイザーもそれを守っています。

クリス・ヘッジズ：SHACというのはハンチンドン動物虐待阻止グループのことですね。

ウィル・ポッター：そうです。ウェブ活動を始めたのはSHACのメンバーです。政府の調べでは、フィラデルフィアとニュー・ジャージーで自宅から2～3人の人がウェブ・ニュースを始めたのです。当時はこれが大変好評でした。現在のSNSの走りですね。抵抗運動や大衆運動がオンラインで情報を流し、動員をかけるようになったデジタル運動時代の始まりでした。オンライン活動が盛んになりましたが、ネットは味方だけでなく敵の目にも触れます。合法的公然組織であるSHACがウェブで過激派の行為を流し、それが合法的なものと考え、支持を表明するのを見て、政府はそれを共謀と見ました。共謀によって不法活動が生まれる土壌だと考えたのです。

それまではウェブ活動家が違法活動として捜査されたり逮捕されたりしことがなかったけれど、政府はウェブ活動を共謀活動であると、動物企業保護法違反として告訴しました。ウェブ活動家は動物企業へのテロリストとして逮捕され告訴されました。共謀罪、動物企業保護法違反、電気通信法違反などの罪名です。多国籍大企業に対して州境を越えて犯罪共謀をしているとして起訴されたのです。

クリス・ヘッジズ：あなたは本の中で、9・11以降に反テロ法が市民運動や反差別運動に使われるようになったことを指摘しています。反テロ法が動物愛護運動に使われるようになったのは企業が攻撃されているからだとも書いています。動物権利擁護運動が非暴力運動であっても、企業から金銭的恩恵を受けている民主・共和両党の指導部を突き上げて、テロ行為として宣言するように働きかけました。豊富な財源と監視手段を使って運動組織を監視し、スパイを送り込んで、運動を犯罪集団化します。確かあなたは本の中で、それが米国史の中で最長のFBI犯罪捜査だと書いていましたね。通称アンナ、実名ゾーイ・エリザベス・ヴォスというFBIから金を貰って情報提供やら協力をする女性のことを書きましたね。9・11以降のアメリカ人イスラム教徒迫害の嵐の中で、FBIがアンナをスパイとして活動家集団に潜り込ませました。彼女は活動家集団に金といろいろな物、FBIが盗聴器を仕掛けたアジトを提供し、実際には起きなかった爆弾攻撃をけしかける議論をやらせた。

その罠にある程度嵌まったのが26歳の若者で、刑務所で10年間暮らす破目に陥りました。裁判ではFBIが証拠書類2500ページを隠して彼に不利な状態を作り出し、結局20年間の刑を言い渡され、ほぼ10年間服役しました。あなたはFBIが環境擁護グループや動物権利擁護グループの中に15000人のスパイや情報提供者を潜り込ませていると本の中で述べています。FBIの手口について話してください。

ウィル・ポッター：最も重要な手口は言葉の利用です。言葉の利用は1980年代に業界団体が始めた戦術です。彼らは環境テロリズムなどの言葉を造語しました。ご存知のように、その後数十年間国際社会でいろいろな形のテロ議論が盛んになりました。しかし、80年代～90年代当時は企業による社会運動の悪魔化は大きくは進展しませんでした。少

しは成功しましたが、私の研究では、社会運動の悪魔化、テロリズム化が大きく進展したのは9・11事件以後、まだ救助隊や消防隊員など初期対応者が瓦礫から犠牲者を救助している段階で、多くの議員が環境活動家や動物権利擁護活動家の仕業ではないかと言いだめたことからです。企業と政治家が環境や動物を守る運動や人権や反戦などの社会運動をテロリズムと結び付ける文化的雰囲気を作りだしたのです。

その文化雰囲気の中では非条理が条理となり、非暴力運動グループや企業行為を妨害する人々を大罪人とし、その論理を他の社会運動・市民運動・労働運動にも適用するので、私はそのやり口を三つに纏めました。合法的なやり口、反テロ法や抗議運動を抑制する法律を作る立法的作戦、スパイ・密告屋を使うなどの超法規的作戦の三種です。

密告屋を使うギャングのようなやり方の横行に対し、FBIは監視総監室³や監視委員会から何度も注意・叱責されました。確かに動物保護運動や環境保護運動に関しては、この効果は若干ありましたが、結局情報提供者の悪用は企業主導のもので、企業が金銭で動く民間調査会社を利用し、その会社の探偵がFBIのわずかな制限の範囲外で活動することで活動家に関する情報を提供し、活動家に関するデータベースを作ります。私はこれが他の運動に対しても行われているのを知っています。スタンディング・ロック⁴やキーストーン・パイプライン⁵では企業お雇いの警備会社が運動を弾圧し、警察に協力しています。私は、大企業が警察にパワーポイント・プレゼンテーションを行っているのを記録したビデオを持っています。彼らは抗議者の身元や活動内容を官憲に教え、適用可能な刑事法律をあげて、それに相応しい刑罰を勧告しているのです。企業、警備会社、FBI、警察は足並みをそろえています。

クリス・ヘッジズ：あなたは統合センター（fusion centers）について書きました。これは様々な法執行機関から情報を収集してそれに照合して運動を弾圧する国家戦略ですが、民間警備会社とも共謀しています。私がスタンディング・ロックへ行こうとしても、民間警備会社が道路封鎖して、通さないのです。警備員はケブラー社のベスト（防弾チョッキ）を着て、どこの会社の製品か分からないが銃身が長い武器を持っていました。警備員たちはほとんどが元警官、元軍人です。体制側にはこのような遠心力が働いて、企業の豊かな金の援助で、市民運動活動家に迫っているのですね。『アニマル・ピープル』は抗議キャンペーンに関与したために政府からテロリストとして標的にされた6人の若者に関するドキュメント映画です。政府が圧倒的な量の金と人間を使って抗議運動を弾圧していることを描いた映画でした。

ウィル・ポッター：弾圧側が使う資源は圧倒的ですが、社会運動や抗議運動が使う資源は非常に乏しいです。私やあなたが裁判で国と争うとき、国と企業側が用意する証拠類はび

³ 連邦監察官法により独立機関として設立された機関。

⁴ サウスダコタ州とノースダコタ州の境をまたがる先住民居住地に企業がダコタ・アクセス・パイプラインを引く事業に先住民が反対する運動。

⁵ カナダと米国を結ぶ石油パイプラインで、カナダ先住民が反対している。

つくりするほど多量です。あなたがおっしゃったような米国歴史上最大の国内テロ捜査に加え、彼らはこの政策を実現するために、途方もない大金を投じています。

ハンチンドン動物虐待阻止運動活動家が裁判闘争しているとき、彼らはすでに一方的に企業の味方をする偏向法律の動物企業保護法で有罪と決まっているんです。抗議運動をテロとする規定で服役判決を待つだけなのです。そのくせ政治家、議員、企業は「我々の手は縛られている。もっと自由に動けるように、金、活動資金、警官増員が必要だ」と主張しています。あなたが言ったように、政界・財界の回転ドアの遠心力が働いているのです。過去数十年間の遠心力の働きで、非暴力抗議がFBIの言う「ナンバーワンの国内テロ脅威」にされたのです。それは、彼らの資金とその影響力のおかげなのです。

クリス・ヘッジズ：裁判にも影響を与え、捻じ曲げられた判決が出ます。テロを一般犯罪と別扱いにし、特別に重い刑罰にする「テロ刑罰強化法」について話してください。一般犯罪の刑期に20年長く、場合によっては4倍の長さの懲役刑が言い渡されることあります。非暴力抗議運動に対してですよ。

ウィル・ポッター：テロ刑罰強化法は、6人の白人至上主義右翼グループが起こしたオクラホマシティ爆破事件の後、議会が成立させた法律です。あの事件で168人が死亡、負傷者が680人で、ほとんどがこれまで標的にされていなかった一般市民でした。このような暴力の恐怖の中で、この法律が可決されたわけです。しかし、この法は右翼のテロよりは非暴力環境保護抗議者の刑期延長するために用いられました。例えば、地球解放戦線（Earth Liberation Front）が弾圧されました。この法は逮捕された活動家の刑期を重くしただけでなく、囚人となった活動家を社会運動家からテロ犯罪者と再定義しました。

私は判決を受けた囚人や元囚人に面会してきました。ほとんどの人には前科がなく、重大犯罪歴がないにもかかわらず、刑務所では最も厳重に警備された施設に入れられています。連邦刑務局は彼らを「アカ札」とか「レッド・カード者」と呼んでいます。つまり、刑務所内で危険なテロリスト囚人と書いた大きな札を付けさせられることがあるのです。刑務官も彼らを他の囚人と別扱いします。見せしめ的に罰します。

囚人の人権をこのように峻別するのは単なる不均衡な処遇をはるかに超えて抗議運動者に対する敵意ある刑の執行です。抗議運動活動家からテロリストの再定義なのです。彼らをテロリストと呼ぶのは、最初はプロパガンダ戦略でしたが、それは一人歩きし始め、権力機構の中でどんどん自己増殖していったのです。

クリス・ヘッジズ：有罪宣告を受けた活動家は管理制御ユニット（management control units）へ入れられます。イリノイ州マリオンに、有名なアルカトラスに代わるザ・ロック（最高警備刑務所）連邦刑務所⁶があります。私はそこへ行ったことがあります。あなたの本の中でマリオンのことを書いていますね。最近はサウスカロライナ州のフローレンスに

⁶ 2020年現在で米国には110の連邦刑務所、1833の州刑務所 その他少年矯正施設などがあり、人口10万人あたりで換算すると世界一の多さで、しかも収容率は100%を越えて過密状態。

も最高警備刑務所が作られました。私がマリオン刑務所へ行ったのは元安全保障局アナリストのダニエル・ヘイルに面会するためでした。ヘイルは米国のドローン戦争に関する機密情報をメディアにリークした人です。リークは非暴力犯罪です。刑務所に入れるべき犯罪でもないのに、活動家と同じように人里離れたところにある厳重警備刑務所の中の特別に制約が厳しい房に収容されました。資本と権力に抗議する人々はこういう扱いを受けるのです。

ウィル・ポッター：私を見る限り、人々がそういう話を聞くと、一つには嘘だろう、ここは民主主義国アメリカじゃないかと反応し、二つにはそんなことは人権を無視する他の国で起きることだと反応する傾向があります。しかし、アメリカにはこの種の運動に政治犯刑務所を利用してきた長い歴史があります。その中には、反戦運動、黒人解放運動、アメリカ・インディアンの運動など、今では議員たちが英雄的な言葉でさえも考えている社会運動も含まれています。これらの抗議者の多くは実験刑務所へ送られます。

実験刑務所の一つに政治犯向けの政治犯刑務所として機能するものに、通信監理ユニット（communications management units : CMU）⁷があります。政府文書によると「反企業や反政府思想」がある受刑者が CMU に送られます。実験刑務所などの存在はいつそう政治的弾圧を体系化し固めることとなります。それは社会運動を潰す過剰な戦術を招き固定化させ、それを公的な政府装置の一部に変質させる作用も発揮します。現在この CMU、秘密主義の刑務所が法律で成文化され、毎年たくさんの囚人が送り込まれています。最初は「危険で暴力的な囚人に対する厳しい処置」であった CMU が非暴力運動で逮捕された普通の人々に使われているのです。私たちはミッション・クリープ⁸に直面しているのです。

クリス・ヘッジズ：そうですね。シエラ・クラブ、グリーンピース、全米野生生物連盟などの主流環境グループは過激行動をやる運動を非難し、彼らと決別するという忠誠宣言を政府から要求され、その圧力に屈してそれを行ったり、自ら進んで政府への忠誠宣言をするグループも出てきました。非常に残念です。まさに恐るべき警察国家の基礎が成立しつつあり、政府逆らうものはすべてテロリストにされる時代になりました。私が冒頭でコップ・シティの事件取り上げたのはそれを言いたかったからです。

ウィル・ポッター：私もコップ・シティを追いかけているのは、そこに私たちが話してきた力学が働いているからです。ハンチンドン動物虐待に関して見られた企業・政府側の弾圧戦術と運動側の戦術の力学がコップ・シティにも見られます。抗議運動は手紙を書いたり、教会と協力したり、ウェブを使ったり、無料音楽会や無料託児室を設けたりする多様な非暴力活動と、法律無視の器物破壊を伴う過激活動の両方があります。

政府側は、非暴力活動も含めてすべての抗議を国内テロ、無政府主義、公共治安への脅

⁷ テロリスト受刑者の通信の制限。他の受刑者と比較して CMU に配置された受刑者は外部との面会。メール、電話などの接触が禁止される。

⁸ 米軍事用語で「終わりの見えない展開」を意味する。

威と見做して弾圧し、同時に主流運動体に忠誠宣言を迫っています。主流運動体の活動家が企業のブルドーザーを破壊するなどの過激派と決別して、彼らを公けに非難する方向へ向くのは理解できます。寄付やらボランティアに支えられる運動なので、それを失うのを恐れるのです。自分たちは過激な活動をしていないのに、FBI から過激派として逮捕されたくないのです。このような恐怖感から彼らは FBI 戦略の餌食となって、運動が分裂するのです。

反コップ・シティ過激派や無政府主義者を非難宣言し、彼らを古典的な鬼のように扱う主流運動体や政府の手足となった運動体が増えると、FBI が抗議運動に打ち込んだ楔が効果を発揮します。要するに FBI は社会運動が内部分裂するように、非暴力運動と急進的運動の間に楔を打ち込んで分裂させるのが狙いなのです。急進的な反コップ・シティ活動家をリベラル又は左派主流の人々を分裂させるのが狙いなんです。失うものを持つ主流運動を締め付けることでこの分裂を作り出しているのです。

クリス・ヘッジズ：そうですね。結局、急進的運動を非難して政府に忠誠を宣言する非暴力運動団体の活動家も、自分がやっていない活動で告訴されるのですね。あなたの本やドキュメント映画『アニマル・ピープル』を見れば、そのことが明らかです。しかし、非暴力活動家は急進派弾圧の現場にいないし、そういうでっち上げ迫害が起きていることに無知です。しかし、そのうちある日自宅の戸口にやって来た警官か FBI によって逮捕・告訴されるのです。

ウィル・ポッター：コップ・シティに関する裁判は非常に超現実的です。保釈についての審問では抗議者被告が何を言っても取り上げられず、他方では警察は抗議者の靴についている泥さえも証拠にします。

クリス・ヘッジズ：そうです、そうです。衣服の汚れもテロ行為の証拠にされます。

ウィル・ポッター：汚れた服、フード付きのトレーナもテロリスト服装とされます。最近ジョージア州で起きた警察の手入れと逮捕状を見ますと、あなたや私なんかはたちまちテロリストになりますよ。自宅の図書が罪を証明する証拠になるのです。有害図書のリストがあって、リストにある本があると不法行為の証拠として法廷に持ち出されて、有罪宣告を受ける流れになっているのです。そういう流れがあるから、私は非暴力主流運動も権力に妥協しないで、戦闘的に戦うべきだと主張しているのです。妥協や沈黙が社会的正義を求める運動を弾圧から守った例は、歴史上一度もありません。弾圧を助長させるだけです。権力からの反撃の対象になるのを恐れて企業や政治家にすり寄ろうとしても、それは決してうまくいきません。何故なら、抗議運動が少しでも効果的になるとき、企業にとって脅威と見做されるときはいつでも、権力の弾圧装置が全面稼働するからです。

反コップ・シティ運動を楽観的に見ているわけではありませんが、地元教会の人々、コミュニティ・グループなども運動に参加していることは元気づけられます。運動を支持し擁護する多様な声があること、不特定多数の人々が抗議テントにやって来て運動の一部だと大声で言うことが、権力のテロ化攻撃、悪魔化攻撃に対する最良の防衛になります。

クリス・ヘッジズ：その意味ではこのようリアル・ニュースのインタビューは役に立っていますね。リアル・ニュース・ネットワークに感謝して、インタビューを終わりますよ。

少し時間があつたので、二人の対談が続いた。

クリス・ヘッジズ：ここからは、第二部になります。運動の過激派グループと非暴力グループについて話し合いたいとおもいます。私はウォール街オキュパイ運動にかなり関わっていますが、運動中の「ブラック・ブロック」⁹の破壊行為には批判的でした。それが警官と国家によってオキュパイ運動を悪魔化するのに利用されたからです。特にオークランドのような都市では破壊行為にはあまり効果がありませんでした。オークランドのような街に住んでいれば、窓からゴミ箱を投げ捨てることもできるかもしれませんが……。実際にオークランドに住むイシュマエル・リードは、ミット・ロムニーはどうやらあそこに地所のようなものを所有しているのだから「窓からゴミ箱を投げ入れたいのなら、金持ちが住んでいるラ・ホヤに行けばいいじゃないか。そこは金持ちが住んでいて、ゴミ箱を投げ入れる場所なのだから」と言っているのです。

そういうわけで、私はブラック・ブロックにはずっと批判的でした。しかし、あなたも本に書いていますが、公安が運動を分断・崩壊させるために執行しているコインテルプロ COINTELPRO というコードネームの公安警察手口があり、それもオキュパイ活動家には無視できないと言っています。彼ら活動家には非常に多くの資源があるので、唯一の効果的な戦略は透明性であり、アジャン・プロボカトゥール¹⁰のようなものです。彼らは黒い覆面を好んでいますが、それは顔を隠すことができ、人物特定ができないからです。あなたはブラック・ブロックなどのアングラ・グループに寛容ですね。ただ、それについては触れてほしかったのです。

ウィル・ポッター：ええ、その通りです。長年運動取材し打ち込んでいると、どんな戦術に効果があり、どんな戦術には効果がないと、容易に判断できないと思うようになりました。FBI や公安警察は様々な抗議活動を弾圧しています。あなたがおっしゃたように器物破壊行為は他のグループにも感染するし、弾圧の直接的口実になるでしょう。しかし、私がこれまで見てきた範囲では、活動家が経験する弾圧は戦術の傾向やそれが不法か合法か

⁹ かなり前から欧米に台頭したファシストに対する運動（アンティファと呼ばれる）の中に暴力を辞さない過激派が生まれた。黒い服で身を隠すので「ブラック・ブロック」と呼ばれた。私は昔メキシコのカンクーンで WTO 閣僚会議に反対するデモに参加したとき、この日本の忍者のような恰好をしたブラック・ブロックに出会った。彼らは「自分たちは過激な行動をするが了解してくれ」と参加者に了解を取っていた

¹⁰ おとり捜査において、おとりを仕掛けられた犯罪者が未遂に終わることを予期して、おとりが犯罪を教唆すること。ここの原文は意味をとりづらい。この文章の主語、「彼ら」は活動家を意味しており、ここでのアジャン・プロボカトゥールとは、実際に実践されることはないであろう行動を単に煽る、という意味であろう。－田中

とは関係がないようです。

例えば、企業の実験室に侵入し、動物を盗み出し、建物に火をつけるアングラ・グループは、重大な窃盗罪または人を傷つける可能性がある犯罪を犯したといえるかもしれないのですが、FBIや企業に関心はそういう不法犯罪よりは、全国グループが潜り込ませた調査員が現場写真をとり、動物虐待を撮影して、発表することにより多く向けられています。

それで、あなたの質問への答えですが、抗議様態にはある種の分布があります。どういう抗議活動が厳しい弾圧を招くかは、それが目立った変化をもたらすかが決定要素となります。この数年間不法活動とはなんら関係のない活動家に対する弾圧戦術が急速に、強引に展開されているのを見て、これまでの私の見立ては少々甘かったのでは、と認めざるを得ません。公安やFBIは動物解放戦線や地球解放戦線のような過激派を追っているとやってきました。「これらの過激派を取り締まらなくてはならない。ブラック・ブロックを取り締まらなければならない」と数年間やってきました。

しかし、実際に私たちが目にしているのは、全体的に言って、FBIがやっているのは過激派取り締まりというよりは、運動構築や広がりを抑えることです。この先どうなるかはわかりません。このような戦術がなくなるかどうかもわかりません。私は、国家から高圧的で暴力的な反応があるときはいつでも、私たちはそのような抗議戦術を見るかもしれないと感じています。その一方でコップ・シティを見ていると、運動側がやるべきことは、運動を様々な要素が入り混じった複雑なものにすること、次々の新たな抗議運動を作りあげること、雑多で様々な人々をたくさん集めること、そしてあなたがおっしゃったような戦術で一部の人たちの反感を買わないようにすることだと思えます。

クリス・ヘッジズ：ハンチントン動物虐待グループの運動がどうなったかを話します。運動はハンチントン生物科学会社を潰しました。しかし会社に救いの手が伸びて、ハーラン・ラボラトリーズ会社、NDAアナリティクス、その他の会社と合併し、最終的にエンヴィゴ社という大企業として生き残っています。このことか運動としてはどういう教訓を引き出せますか。

ウィル・ポッター：あなたも参加していたオキュパイ運動の結末と同じでしょう。大きいと潰せないのです。HLS（総合生命科学）つまり動物の生体解剖企業はすべて大きい規模で、そのうえその下には動物処理に関する多種多様な会社がたくさん結束しているので。それらの企業は「HLSが潰れたら、実験場が潰れたら、我々すべてが食っていけなくなる」と言っています。「大きすぎて潰せない」というメンタリティのために多くの人々がエンヴィゴのような動物虐待する大企業のもとで結束するのです。それがこの産業に圧倒的な力を与えるのです。

私は政治的弾圧を集中的に書いてきました。だから私の文章はかなり暗く陰鬱です。しかし社会運動の力についても書いています。米国では4～5人の人々の抗議運動に大企業が怯えました。2～3台のコンピューターによる摘発で多国籍企業がニューヨーク株式市

場から追い出され、店頭市場のピンクシート銘柄に格下げになったことがありました。これが企業資本を心底慌てさせました。その恐怖は今も残っています。だから彼らは狂気の弾圧を行っているのです。弾圧は企業がパラノイアに陥った証拠です。また再び運動にやられると恐れているのです。

クリス・ヘッジズ：多分彼らは自分のやっていることが邪悪なことだと分かっているでしょう。だからそれを隠すのです。

ウィル・ポッター間違いなくそうです。コネディアン11のジョン・スチュワートはかつて「邪悪なのかそれとも間抜けなのか」という彼の番組で面白いことを見せました。彼が「奴らが大変邪悪だからこんなことが起きるのだ」と言うと、相方が「いや、違うよ。奴らは間抜けなんだ」という掛け合いです。私は邪悪の方に賛成だ。長い間社会運動に対するFBIや公安警察の弾圧を見てきた私は、奴らが弾圧や迫害や嫌がらせを故意なくやったとは思えません。もちろん中には命令に従っただけの警官もいただろう。しかしあなたが言った米国対SHAC 7裁判11で、当時連邦検察官で後にニュー・ジャージー州知事になったクリス・クリスティーはこの裁判で名前を売ろうとした人物たちの一人であったことをみれば、権力者側の邪悪さが分かるだろう。彼らは政治的日和見主義者で、活動家弾圧を通じて自分を犯罪やテロリズムを許さない人物であると売り込んで、政治的出世を目指したのです。このような状況はまだしばらく続くでしょう。2021年1月6日のトランプ一味の議会議事堂襲撃や世界各地でのファシスト団体の台頭を受けて、ファシストと闘うアンティファの数が増えました。闘うしか道がないからです。それを受けて国家の暴力装置もアンティファを弾圧するために稼働しています。

クリス・ヘッジズ：ありがとうございます。ウィル・ポッターでした。みなさんは是非『グリーンは新しいアカ』という本を読み、『アニマル・ピープル』というドキュメント映画を観てください。

11 ハンチンドン動物逆阻止グループの7人がテロ容・疑で起訴され、4～6年の服役刑となった。